

# カレッジ通信

編集・発行  
東京建築カレッジ

授業見学  
大歓迎！  
Tel. 03  
(5950)  
1771

## 学べば誰でも成長できる 入学1ヶ月、第25期生の今



図面通りに墨付け、刻みを行い、小さな建築構造体を作りました。（6月27日）

### 建築の夢とやりがいが見つかる！

来年4月入学の第26期生の募集活動がいよいよ本格化します。本校の入学は、新卒だけでなく、「第二新卒」「他産業からの転職組」「建築への興味関心から職人を志す人」「既従事者のレベルアップ志向の学び直し」など様々です。「建築の一口を目指す」という方向の中で多

多様な仲間と出会えるのが建築カレッジです。お気軽にお問い合わせください。

学校公式  
サイトへの  
アクセス



今年の授業は6月3日から始まりました。「日本における建築の基本は木造にある」「それを担ってきた大工技術の理論と実践を通して建築を学ぶことに特別な意義がある」（橋本英夫教務運営委員）という考え方で組み立てられたカリキュラムが未経験者にもわかりやすく、いねいに進んでいます。伝統的な大工手道具に親しむところから始まる実技実習はノミの裏押しから始まる手道具の砥ぎに悪戦苦闘しながら、図面の読み方、墨付け、

刻みの課題を一段一段階段を上るように学び、6月26、27日には、2チームに分かれて小さな木組みの構造体を作るところまで到達しました。7月は、これまでに教わった継手や仕口を組み合わせた「カレッジフレーム」を全員が作ります。手道具による手刻みの体験は、今の現場作業では難しいことです。「現場では使わないからいらぬ」という意見もありますが、熟練技能の承継・育成のためには欠かせません。手道具がきちんと使える職人を未来に残すためにも、本校の使命は重いと

講師・指導員一同、考えています。  
**座学も充実、数学の復習も**

実技実習ばかり注目されがちですが、本校の授業の半分は座学（学科授業）です。9日間の集中授業の初日、橋本英夫先生の「木造工作法」から始まりました。橋本先生は、実践と理論を繰り返しながら発展してきた大工技術とは、自然の法則を探求する営みであることを強調します。数学を建築の実用にと落とし込んだ「規矩術（きくじゆつ）」や、ピタゴラスの定理の



橋本英夫先生（「木造工作法」7回目＝6月27日）

応用である「勾股玄（こうこげん）」といった用語も初めて学びました。

建築の仕事には数学のセンスが欠かせません。東京建築カレッジでは元都立高校教員（黒田順先生）による建築職人向けの

「わかった!」、  
「できた!」、  
みんなで伸びる学校

基礎製図（長谷部浩先生ほか）は線の引き方、三角定規や平行定規（製図板）の使い方から個別指導に力を入れています。構造力学、安全学習、情報管理、建築構工法、住宅概論・・・、初心者でも、わかりやすく、ためになる座学（学科授業）も本校の魅力です。

授業の合間に建築士試験問題の解説も（「基礎製図」）



# 人生にとって かけがえのない2年間になる

東京建築カレッジ  
入学のスズメ 3つのポイント

東京建築カレッジの第26期生（2021年4月入学学生）募集が始まりました。入学対象者をご紹介します。お誘い活動の3つのポイントをまとめました。



第25期生（1年生）の女性3人。助け合い、励ましあひながら、2年間を一緒に過ごします。

## ①仲間ができる

小規模な事業所が多く、従事者の高齢化が進んでいる建築の現場では、入職したばかりの若者は同世代と出会いにくく孤独になりがちです。東京建築カレッジでは同じ世界で頑張る仲間と出会えます。卒業（修了）生のインタビューでほとんどの人が「カレッジに入って良かったことは、一生付き合える仲間との出会い」と答えています。働きながら通う密度の濃い学科と実技実習授業、技能照査に向けた特訓や卒業制作で培われた深い交流は、他では得られないものです。クラスメイトは年齢、学歴、職種もさまざま、人として、建築業界人として「どう生きるか」、考えあう場にもなります。

## ②建築の基礎を大工技術から

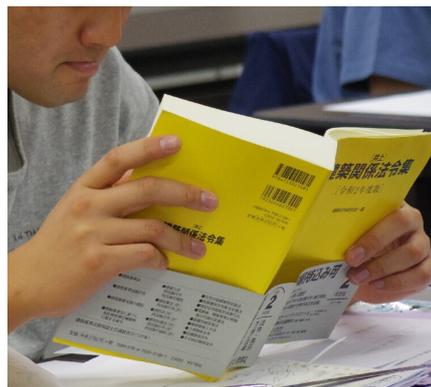


東京建築カレッジは、「大工の学校」ではありません。でも、授業時間の半分を占める実技実習では伝統的な「大工技術」を集中して学びます。ここに他校にない教育の特色があります。

森林大国の日本では長い時間をかけて木造建築が発展してきました。「日本における建築の基本は木造にあり」と言うこともできます。カレッジでは伝統的な大工技術を通して木造建築の真髄を学びます。設計と施工を一体にこなすデザインビルドの主役が大工です。今の現場では教わりにくい手道具・手刻みにあえてこだわり、日本が世界に誇る手わざの承継に力を入れています。設計職の卒業生の一人はこう話しています。「手道具で実習棟を建てると言われて最初びっくりしました。でも、大工作業の体験で私の建築観は飛躍しました。職人さんと自信を持って話せるようになりました」。大工以外にも価値ある教育です。

## ③建築士、技能士への近道

「建築士指定科目」をすべて履修すれば、卒業（修了）後、すぐに一級建築士試験を受験できます。二級・木造建築士は合格したら免許登録も可能です。一方、2年次の技能照査試験に合格すると「建築大工技能士補」の称号が与えられます。これにより「建築大工2級技能検定」の学科試験が免除になります。23歳以下の同検定合格者は「技能五輪全国大会」に出場できます。



法規の実践的学習も好評。試験会場に持ち込み可能な法令集の勉強法のヒントも教えてもらえます。

## カレッジと一緒に若者を育てませんか

東京建築カレッジでは、本校を利用して、技術・技能の担い手を育てたいと考える中小建設事業主を募集しています。採用と教育にカレッジを位置付ければ「教育熱心な会社」をアピールすることができ、求人活動を有利に進めることができます。大工職はもちろん、施工管理や設計など他専門職でも新人育成に生かれます。

新人教育制度を導入を